

生産工場でもリサイクルへの積極的な取り組みが行われています

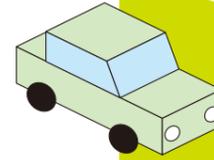
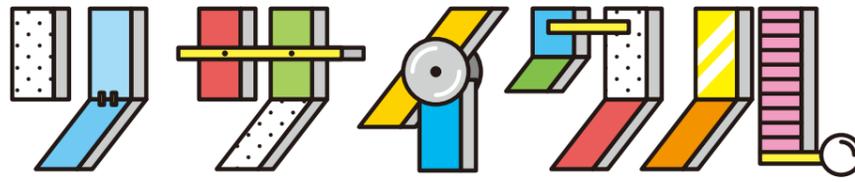


車のリサイクルは、さまざまな役割の人たちに支えられているのがよくわかったね。みんなも、資源を大切にしたり、地球環境を守るために、何ができるか考えてみよう！



未来の地球のために！

進め！くるまの



車は設計・開発の段階でリサイクルされることを考えてつくられているんだ。そして、使用済みの車の適切な処理には、たくさんの人が関わっているんだよ。それが、資源を有効利用する循環型社会につながるんだ。



6 製造事業者編

▶ おたずねした会社 三菱自動車 (東京都港区)

使用後を考えて車を開発

リサイクルしやすさや素材も工夫

車のリサイクルへの取り組みは、設計・開発の段階から始まっています。自動車メーカーでは、車が使用済みになったときの部品の取りはずしやすさを工夫し、素材も再生利用しやすいものを多く使うようにするなどして、リサイクル率を高める工夫をしています。また生産工場では、車をつくるときに出る材料の切れはしを再資源化することでゴミも減らし、排出ガスや排水をきれいに処理して環境に影響が出ないようにしています。



「エクリプス クロス」熱可塑性樹脂の主な採用箇所



5 オークション会場編

▶ おたずねしたところ JU長野 (長野県中古自動車販売商工組合) (長野県塩尻市)

車の再利用をあと押し

車を長く大切に乗り継ぐお手伝い

車のリユース(再利用)に大きな役割を果たしているのが、車を売りたい人と買いたい人を結ぶオークションです。オークションでは、売りたい人の希望金額に対し、買いたい人の中でいちばん高くつけられた金額がマッチすれば売買が成立します。こうして車が長く乗り継がれることは、限りある資源を大切に使うことにつながります。

オークションでは、リサイクル料金もきちんと新しいユーザーに引き継がれます。



車を売りたい人と買いたい人を結ぶオークション会場



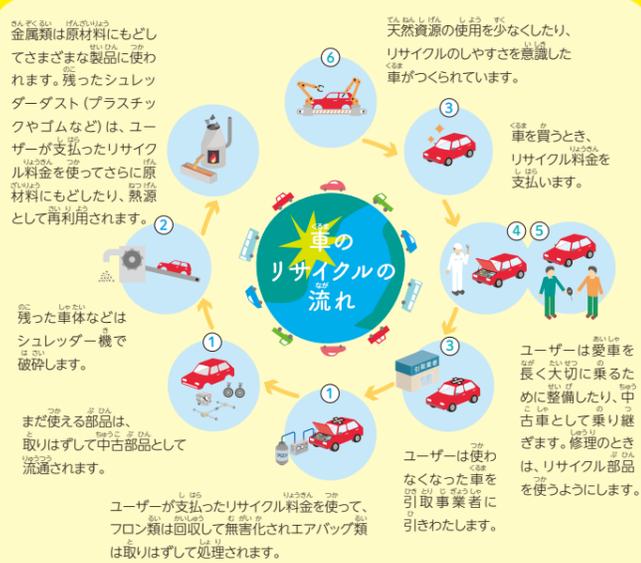
その日出品される車がずらりと並ぶ駐車場

HPでは自動車リサイクルをもっとくわしく学べるよ！「博士の日記」で今までの記事もチェックしよう！

公益財団法人 JARC 自動車リサイクル促進センター Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC <https://www.jarc.or.jp>

自動車リサイクルタウンはコチラ <https://www.jarc.or.jp/recycletown/>

まとめ編 多くの人が役割を担うことで成り立つ車のリサイクル



- 1 解体事業者編 2 破碎事業者編 3 販売事業者編 4 整備事業者編 5 オークション会場編 6 製造事業者編

車のほとんどをリサイクル！

4 整備事業者編

▶ おたずねした会社 大宅自動車サービス工場 (岡山県倉敷市)

車の健康をサポート

長く安全に乗れるよう厳しくチェック

自動車整備工場は、ユーザーが車に長く安全に乗れるよう、整備士の人たちが日ごろから厳しい目と専門の技術で点検・整備をし、事故や故障を防ぐことに大きな役割を果たしています。また、部品を交換するときには、資源の有効利用やゴミを減らすことにつながり、ユーザーが新品より安く使えるリサイクル部品も積極的に活用しています。



コンピューターを使った故障診断を博士に説明



ライトの明るさや向きを調べ正しく調整

3 販売事業者編

▶ おたずねした会社 神戸マツダ (兵庫県神戸市)

リサイクルのかけはし

ユーザーと車のリサイクルをつなぐ

車を販売したり、使用を終えた車を引き取ったりする自動車販売店は、ユーザーとリサイクルをつなぐかけはしにもなっています。それは、ユーザーが自動車販売店などで車を買うときに支払う「リサイクル料金」が、使用済みの車の「エアバッグ」「フロンガス」「シュレッダーダスト」の3物品を正しく処理するための費用に使われているからです。ユーザーも、販売店の人が「リサイクル料金」についてきちんと説明してくれるので、安心して支払えます。



エアバッグ フロンガス シュレッダーダスト

2 破碎事業者編

▶ おたずねした会社 青南商事 (青森県弘前市)

分別・回収される資源たち

分別・回収で資源に新たな命を！

破碎工場に運ばれた車体は、まずプレスシュレッダーという機械であらくカットされ、次に本シュレッダーで細かく砕かれます。そうして粉々になった鉄や銅、アルミニウムなどの金属類が機械や人の手によって素材ごとに分別・回収されます。また、残ったプラスチックやゴムなどの「シュレッダーダスト」と呼ばれるクズも、土木工事の原材料や熱源としてほとんどがリサイクルされています。

破碎工場で回収された金属資源等の山。多いときには鉄だけでもひと月に約9000tも回収



磁選機の構造



金属資源等の素材ごとの分別は、それぞれの性質を利用

まだ使える部品を生かす大切な取り組み

使用済みの車が最初に運ばれてくる場所が解体工場です。ここでは、安全に作業ができるようにガソリンやオイルを抜き取り、そして、地球温暖化などの原因となるカーエアコン用の「フロンガス」を回収し、しょうげきを受けるとふくらむ「エアバッグ」を適切に処理します。次に、まだ使える部品をていねいに取りはずし、リサイクル部品として国内外のユーザーにおいて再利用されます。そのあとに残った車体は、解体・分別されて「破碎工場」へと運ばれます。



まだ使える部品の状態をていねいにチェック



外にもれないよう、フロンガス回収は細心の注意を払って

1 解体事業者編

▶ おたずねした会社 石上車輛 (北海道札幌市)

使える部品を再び利用